

シラカバ樹皮 利活用法探る

枝幸で学生ら採集体験



枝幸町内の山林で、シラカバの樹皮をはがして集めたワークショップ

【枝幸】シラカバの利活用に取り組む一般社団法人「白樺プロジェクト」(旭川、鳥羽山聡代表理事)は、町内の山林で樹皮採集のワークショップを行った。学生や林業関係者ら36人が参加し、シラカバの丸太から樹皮を取りながら、地域資源として生かす方法を考えた。

シラカバの樹皮は、かこ作りなど工芸品の材料に使われることがある。通常の製材過程で廃棄されることも多い樹皮を効率的に集めることで、シラカバに高い付加価値を付ける可能性を探ろうと企画した。

町内の村山木材が協力し3日に開催。参加者は、樹皮をはがしやすそうな木を選んで伐採。樹齢50年程度とみられる高さ約16メートルのシラカバが長さ80センチほどの丸太に切断されると、学生たちは樹皮にナイフで切れ目を入れ、破れないよう慎重な手つきではがしていった。会員15人が参加したサークル「北大森林研究会」の代表で、北大農学院修士課程2年の安斎暢仁さん(24)は「樹皮を採集する作業は楽しく、はがした内側は輝くように美しい。樹木の利活法として面白い」と話していた。この日に採集された樹皮は、同プロジェクトが開く親子向けの工芸体験などで活用される予定。(佐々木克昌)